

防災ニュース 第12号



2022年の災禍を振り返る(2)

～ 社会インフラの危うさと備え ～

皆様こんにちは。先月(第11号)に引き続き、災害等の多かった2022年を振り返り、名古屋大学名誉教授 福和伸夫氏が「ヤフー・ジャパンニュース」で解説された記事の中から、危惧される社会インフラの危うさやこれからの備えについてご紹介します。

【 明治用水頭首工の漏水から始まった社会インフラの不具合 】

5月17日に愛知県を流れる矢作川の明治用水頭首工で漏水事故がありました。パイピングによって水を貯められなくなり、明治用水に取水できなくなりました。建設して60年を超える施設だったこともあり、社会インフラの老朽化がクローズアップされました。明治用水は、碧南台地を「日本のデンマーク」と呼ぶ田園地帯に変えた日本三大農業用水の一つですが、現在では、西三河工業用水や市町の水道水にも利用されています。田植え時期を迎える中、農業生産額1000億円に加え、出荷額30兆円弱の製造業を支えているため、石炭火力発電や自動車生産などへの影響が心配されました。幸い、農業者の配慮や、産業界が進めていた水の備蓄や井戸の活用などの自助・共助によって影響は最小限にとどまりました。

【 電力需給のひっ迫 】



福島県沖の地震後に出された3月21日の電力需給ひっ迫警報に加え、6月26日には東京電力管内で電力需給ひっ迫注意報が発令されました。季節外れの猛暑だったため、定期点検中の発電所も多く、需要が発電を上回る事態となりました。

再生可能エネルギーの増大に伴う発電所の稼働率の低さが、古い発電所の除却や新設発電所の建設抑制に繋がったことや、ウクライナ侵攻に伴う燃料価格の高騰で新電力の経営が厳しくなったことなども関係していそうです。エネルギー自給率が12%しかない国ですから、エネルギー施設の安全性向上に真剣に取り組む必要があります。

【 大規模な通信障害 】

7月2日には、auの携帯電話などで、音声通話やデータ通信の障害が起きました。メンテナンス作業に伴う通信回線のルート変更時に設備障害が発生して、連鎖的に被害が波及したようで、約81時間にもわたって3043万回線に影響が出ました。障害発生の原因は、作業マニュアルの取り違いによるルーターの設定ミスだったそうです。単純なミスによって、長期間にわたって通信障害が発生し、情報通信に頼る社会が混乱した様子を見て、現代社会のもろさを感じます。この事故を経験し、総務省は通信障害時に他社キャリア通信網に乗り入れるローミング構想を発表しています。

【 これからに備えて 】

水、電気、通信はいずれも社会の維持には欠かせないものです。平時ですらこのような事故が頻発している状況は気がかりです。大規模地震が起きると、こういったことが同時発生する恐れがあります。経済合理主義の中で進めてきた自由化の流れを問い直し、社会を支えるインフラの強化に関心を持つとともに、各々が備えを進めることが大切だと思います。

この一年間の様々な災禍や事故を教訓にしつつ、新たな年が災いの少ない1年であることを願います。



関東大震災から100年、今起きたら…？

～ 現代ならではの課題とは ～

1923年（大正12年）9月1日午前11時58分頃に、小田原周辺を震源とするマグニチュード7.9の巨大地震が発生してから、今年で100年となります。東京都は昨年5月に、関東大震災が再発した場合の被害予測結果を公表しました。

現代ならではの課題について、名古屋大学名誉教授 福和伸夫氏が解説された記事の中には、首都圏のみならず私たちに通ずるものがありますのでご紹介します。

【 地域コミュニティの弱さと行政依存、東京への一極集中 】

昔と比べ一人暮らしの人が増えました。高齢の単身世帯も増え、介護に頼る人も多くなります。若者の中には、コンビニを冷蔵庫代わりに利用し、備蓄していない人も多く、自助の力が落ちているようです。空調やSNSに頼った生活も電気や通信が無ければ成り立たず、健康悪化やデマ拡散などの原因になります。

また共働き世帯が多く、昼間は家族が分散し住宅地では高齢者割合が高くなります。故郷の無い都民が増え、災害後の疎開先にも困ります。近所付き合いが少なく地域コミュニティが弱い社会は、災害時の共助の力も減り、行政への依存度が高まっているようです。ですが大規模災害時には、公助の力には限界があります。避難所が不足し、保育園や介護施設に頼ることも難しくなります。自衛隊や警察の人数にも限りがあり、治安の問題もあります。

遠距離通勤の多い東京では、公共交通が止まれば出勤や帰宅が困難になります。国内外の来訪者への対応も難しい問題です。またネット通販は、通信や物流が止まれば注文や配送ができません。コンビニは物流に頼っており、在庫は余りありません。ゴミ収集が滞れば衛生環境も悪化します。



先に述べた通り、明治用水の漏水、電力ひっ迫、通信障害など、社会を支えるインフラの脆さが露呈しました。こういったことが同時に発生するのが大災害です。建物の耐震化や不燃化でハード被害は減っていますが、ソフト被害は深刻化しています。100年前の震災を思い出し、一人ひとりの対策を進めるとともに、東京一極集中の是正など、対策を進めたいと思います。

以 上